

北 総 の カ



～思いを伝えるチーム ほ・く・そ・う～

思考し表現する力を育てる

～特別活動(話し合い活動)をとおして～

特別活動「話し合い活動」を普段の授業に組み込み、授業改善・学力向上の充実につなげていきましょう。

1 「意思決定(自己決定)」と「合意形成」の2点を実践してみましょう

特別活動の学級活動で行われる話し合い活動は、思考を広げたり深めたりするには必須であり、また各教科等で解決に導くための思考する学習過程で活用できます。

	学 習 形 態	解 決 方 法
①	個人	意思決定(自己決定)
②	集団(班・グループ・学級)	合意形成
①+②	個人→集団・集団→個人	意思決定・合意形成

さらに、特別活動の話し合い活動は、汎用性のある活動と言えます。朝・帰りの会や係・委員会活動は毎日保障されており、教師の働きかけで日常での実践が可能です。

2 児童生徒の「意思決定」や「合意形成」を促すには…「発問」

次の視点で発問してみましょう。

- 指示的な発問(～しよう/してみよう)
- 共感的な発問(～になって想像してみよう/～と同じ気持ちになったことはないか)
- 問題解決的発問(どうすれば/どのように行動すれば、～できるだろうか)
(何を減らしたり/増やしたりすれば、～できるだろうか)
- 援助や補足的な発問(何があれば/何をすれば、～できるだろうか)
- 再考を促す発問(○○ということだが、△△から考えると○○できるだろうか)
(◇◇さんは○○と考えていますが、△△の点で同じと言えるだろうか)
- その他 基礎知識を問う発問 動機や原因の発問 発展的発問
優先順位の発問 総括的発問 等



3 発問で、活気のある授業にしましょう

発問には「主発問」と「補助発問（ゆさぶる発問）」の2種類があります。

主 発 問	本時のねらい ：児童生徒の思考に働きかけ、心ゆさぶる発問になるように考えます
補 助 発 問 (ゆさぶる発問)	児童生徒の発言 ：発言を共有したり、広げ深めたりする発問になるように考えます

児童生徒のつぶやきを活用 補助発問の引き出し数を増やしておきましょう
発問時のTPO (Time Place Occasion) を考えて

4 思考させる十分な時間を確保しましょう



※【参考】実は、話し合い活動を含む「アクティブラーニング」ってすごい？！

下図は「ラーニングピラミッド」と呼ばれるものです。アクティブラーニング部分の学習定着率は、50%以上とされています。よって、話し合い活動には、学習の定着率を高める働きがあると考えられます。

さらに、アクティブラーニングの部分であるアウトプット学習には、自己理解を促進する働きがあるとも言われています。

